

## “楽しむ科学コンクール” プロジェクト選考審査のご報告

2008年1月31日

楽しむ科学コンクール選考委員会 代表者  
東京大学 駒宮 幸男  
東京大学 森 裕司

このたび平成20年度第3回“楽しむ科学コンクール”の選考作業を完了いたしましたので、以下に審査経緯の概要とともにご報告いたします。

本年度の公募は昨年12月21日に締め切られましたが、約2ヶ月間の公募期間中に計10件の御応募をいただきました。この10件に対して本年1月24日に、書面による第1次審査を行いました。慎重かつ厳正な審査の結果、残念ながら今回は1次審査を通過するのに必要な基準を満たした応募課題を見出すことができず、結局、二次審査を待たずに選考審査を終了することとなりました。今年度の応募状況を鑑みるに、本コンクールに関する情報をいかに広く周知徹底させるかが今後の本事業発展の鍵を握ると思われまます。これから諸方面との協議を通じて、来年度（第4回）以降の公募方法などの改善に向けて具体的な検討を重ねてまいりたいと存じます。今後とも関係各位のご指導ご鞭撻を改めてお願い申し上げる次第です。

以上

### “楽しむ科学コンクール”の趣旨

科学の探究には終わりがなく、極めれば極めるほどより深奥な世界が広がっていきます。また、科学は意外性に満ちあふれています。基礎科学はその宝庫であり、だから面白いのです。この醍醐味をぜひ多くの方々に体感していただきたい。これが“楽しむ科学コンクール”創設の動機です。基礎科学とくに広い意味の理学(自然科学)分野の研究に対する興味と関心を広く呼び起こす目的で、研究(または教育)プロジェクトを公募し、厳正な審査を経て採択されたプロジェクトには実施費用(上限100万円)を支給してプロジェクトを実施していただきます。1年後に成果を発表いただき、とくに優秀なものに対しては顕彰いたします。応募は1人でもグループでも結構です。代表者が研究・教育分野の専門家である必要もなければ学位をもっている必要もありません。プロジェクトの代表者が20歳以上であることだけが応募資格です。皆さまからの独創的なアイデアに満ちた応募をお待ちしております。

(本コンクールの実施母体は、国立大学法人東京大学理学部及び同素粒子物理国際研究センター、並びに財団法人平成基礎科学財団です)